

---

2021年度第2四半期決算 及び  
2021年度業績見通し

---

説明資料

帝人株式会社

2021年11月8日

## 今回公表のポイント

医療用ガウン特需収束も、経済の回復に伴う販売増や糖尿病治療薬販売承継効果等により、上期実績売上高4,534億円、営業利益315億円となり、前年上期対比増収・増益を確保。EBITDAも15%伸長し、651億円へ。半導体不足や原燃料価格高騰による先行き不透明感があるも、全社の通期業績見通しは前回見通し\*1を据え置き

### ■上期実績

- ヘルスケアの好調な販売が寄与し、医療用防護具（ガウン等）の官需が収束した影響をオフセット
- 通期業績見通しに対し、EBITDA進捗率 50%（651億円）、営業利益進捗率 52%（315億円）と順調に推移

### ■通期業績見通し

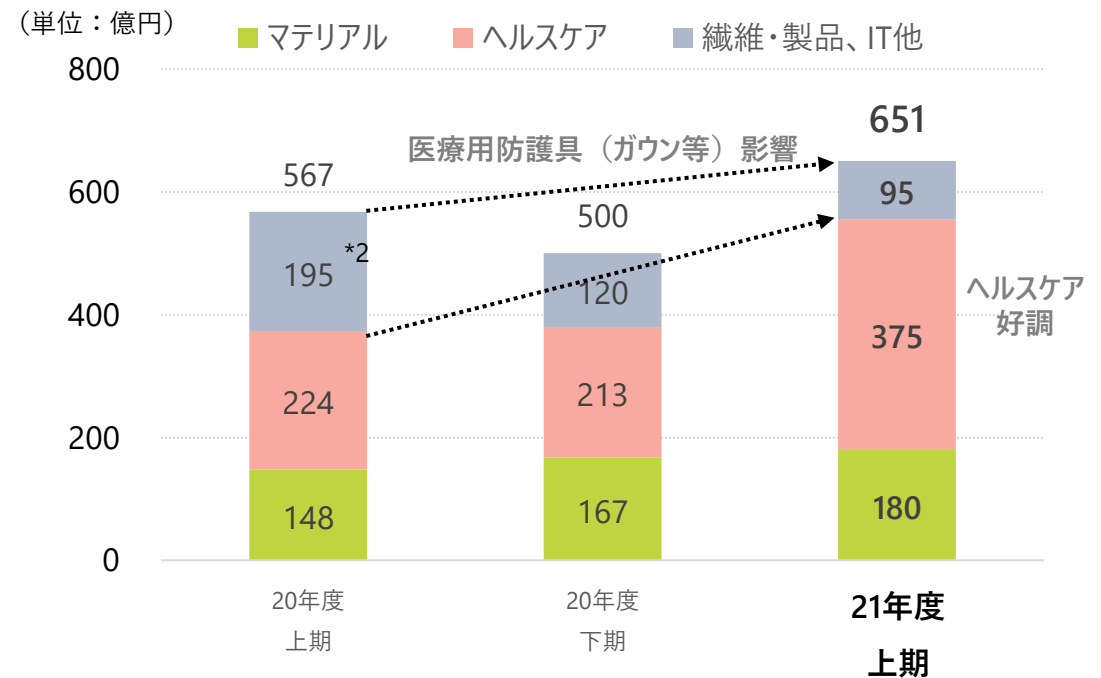
- 上期概ね想定通りの中、下期は先行き不透明感が強いが、前回見通し\*1を据え置き、前年度対比増収・増益見通しを維持
- 年間配当見通しも前回見通し\*1を据え置き  
（前年度対比5円増の55円/株、中間配当：27.5円）

通期業績予想

売上高 9,000億円、EBITDA 1,300億円、営業利益 600億円、当期純利益 350億円

\*1 2021年8月6日公表

セグメント別EBITDA推移



\*2 医療用防護具（ガウン等）が大きく貢献

## 当社の主要ターゲット市場の前提（2021年度）

事業	市場	主な地域	上期実績	下期見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州 米国	•タイヤ・ブレーキ・ホースの需要は伸長	•上期の状況が継続
		産業資材	欧州 米国	•光ファイバー用途をはじめ、2019年度レベルに回復。需要は高水準で安定	•引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	事務機	アジア	•COVID-19によるロックダウン影響や半導体不足影響を受けて、顧客の稼働が減少	•半導体不足による顧客稼働減継続
		自動車	日本、中国 アジア	•半導体不足影響を受けて、顧客の稼働が減少	•半導体不足による顧客稼働減継続 •中国の電力規制影響に注意が必要
	炭素繊維	航空機	欧州 米国	•ワクチン接種率が高い地域では、主に国内便で旅客需要が回復基調。国際線にも回復の兆候 •サプライチェーンは必要在庫確保の動きへ	•国内線に加えて、国際線需要が回復傾向 •貨物輸送需要が引き続き堅調
複合成形	自動車	米国、欧州 中国	•半導体不足影響で、期間後半にOEMの生産台数減が顕在化	•半導体不足影響は2Qの状況が継続するが、期間後半にかけて徐々に緩和の見通し	

### ■ コスト前提

2Qにおいて、各事業における原燃料および物流コスト上昇の影響が顕在化。下期もコスト上昇の懸念あり、状況を注視

## 当社の主要ターゲット市場の前提（2021年度）

事業	市場	主な地域	上期実績	下期見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>痛風・高尿酸血症市場は拡大継続</li> <li>COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上期の傾向が継続</li> </ul>
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅酸素療法（HOT）市場では、入院抑制により在宅療養へのシフトが継続</li> <li>在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数は緩やかな回復基調</li> </ul>	
繊維・製品	衣料繊維	欧米・中国 日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米・中国では消費が回復</li> <li>COVID-19影響により国内市況は低調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワクチン接種の普及により、COVID-19影響は緩和方向</li> <li>• 中国の電力規制影響に注意が必要</li> </ul>
	産業資材	日本 中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車用途は回復基調であるが、半導体不足影響あり</li> <li>水処理フィルター用途の関連市場は堅調を維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 半導体不足影響は継続</li> </ul>
	医療用防護具（ガウン等）	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>官需は一旦収束</li> </ul>	—
IT	IT	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子コミックにおける海賊版サイトの影響が前期4Q以降継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海賊版サイトの影響は継続</li> </ul>

- 
- 
1. 2021年度第2四半期決算 P. 5
  2. 2021年度業績見通し P.13
  3. 主要トピックス P.20
  4. 参考資料 P.22

---

#### 見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2021年11月8日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

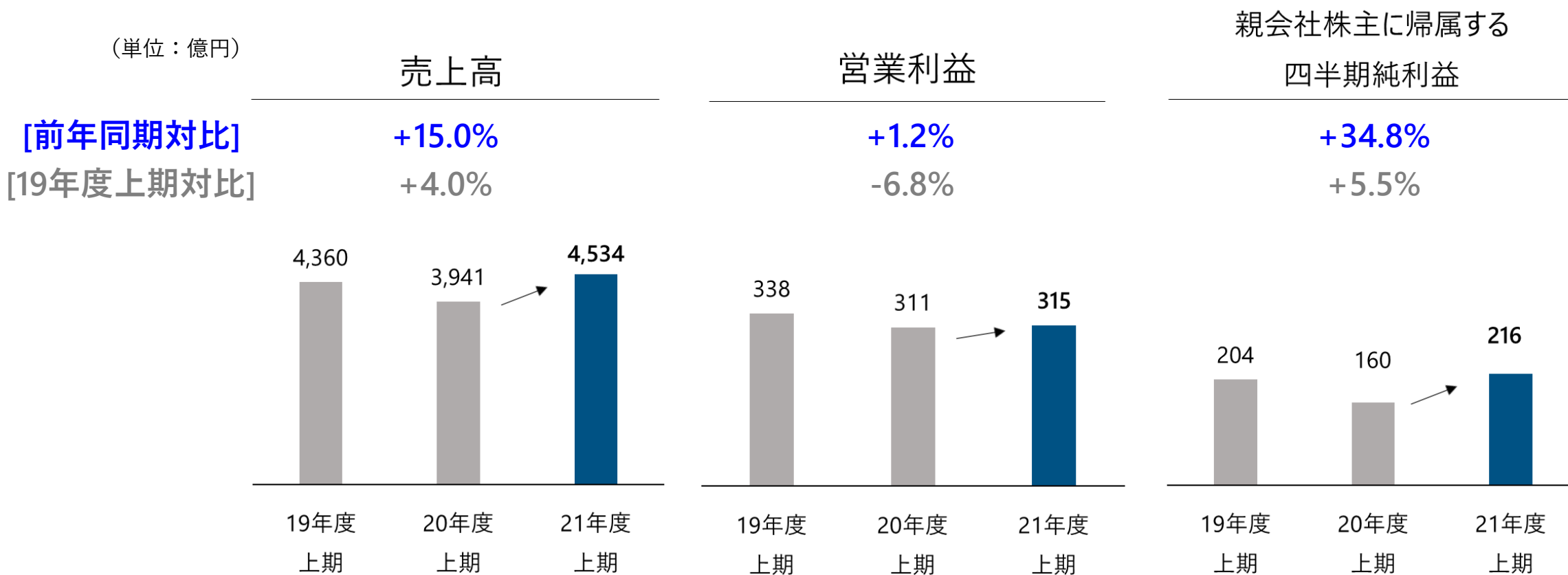
---

# 1. 2021年度第2四半期決算

## ◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

- 売上高は、各セグメントでの経済回復に伴う販売増に加え、マテリアルでの原料価格高騰に対応した販売価格改定等もあり、前年同期対比大幅増収。COVID-19影響前の2019年度上期実績を上回る結果
- 営業利益は、繊維・製品で医療用防護具（ガウン等）の官需が収束した影響はあったものの、糖尿病治療薬を含め販売が好調であったヘルスケアの貢献や、自動車・航空機用途を中心としたマテリアルの販売増や販売価格改定効果等により、前年同期並みの水準を確保
- 四半期純利益は、投資有価証券売却益の計上等により、前年同期対比増益

(単位：億円)



## ◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)				
	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	4,360	3,941	4,534	+592	+15.0%
営業利益	338	311	315	+4	+1.2%
営業外損益	-7	-9	12	+20	-
経常利益	331	302	326	+24	+8.0%
特別損益	-41	-25	14	+40	-
税金等調整前 四半期純利益	290	277	341	+64	+23.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	204	160	216	+56	+34.8%
ROE <sup>*1</sup>	10.0%	7.9%	10.4%	+2.5%	-
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	10.1%	9.5%	7.9% <sup>*3</sup>	-1.6%	-
EBITDA <sup>*4</sup>	588	567	651	+83	+14.7%

\*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本\*」にて算出

(\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*1, \*2 は年換算後の数値

\*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

	(億円)				
	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異	増減率
設備投資 <sup>*5</sup> (設備投資 調整後※)	296	283	1,664 (340)	+1,380	+487.0%
減価償却費	251	257	336	+79	+30.9%
研究開発費	164	149	141	-9	-5.7%

※糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を除く

中間配当は予定通りの1株当たり27.5円で決定

## ◇ 為替・原油価格

		20年度	21年度
		上期	上期
PL換算レート	円/米ドル	107	110
	円/ユーロ	121	131
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		37	69

\*4 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

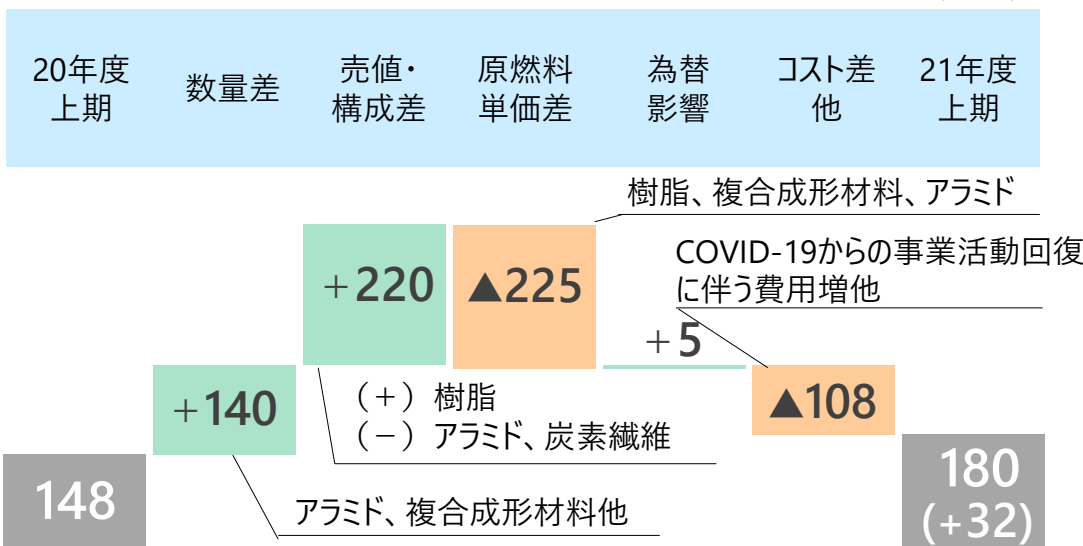


◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異
売上高	1,715	1,263	1,908	+645
EBITDA	244	148	180	+32
減価償却費	142	153	147	-6
営業利益	102	-5	33	+38
営業利益ROIC	7%	-0%	2%	+2%

< EBITDA増減内訳 > (億円)



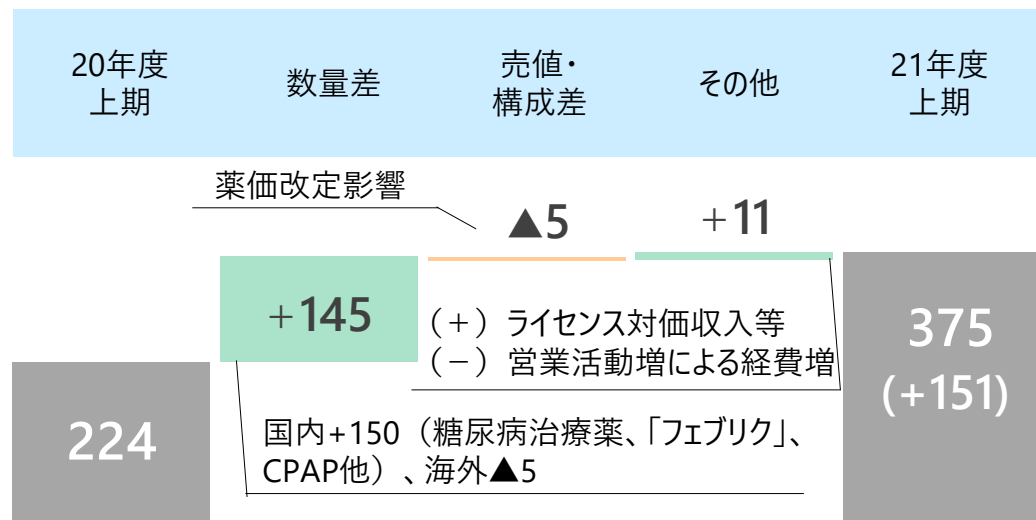
COVID-19影響からの需要回復により自動車用途や航空機用途を中心に全事業分野で販売量が増加。一方、半導体不足や原燃料価格・物流費高騰が影響

- アラミド繊維
  - 自動車用途を中心に需要が回復し販売量が増加
  - 大型定修とその期間延長等による生産減や天然ガス価格上昇がコストに影響
- 樹脂
  - アセアン地域でのCOVID-19影響や半導体不足の影響を受けたものの、経済回復に伴い販売量は増加
  - BPA等の原料価格高騰影響を受けて、販売価格改定を進めた
- 炭素繊維
  - 航空機、風力発電、レクリエーションを含む用途全般において販売量が増加
  - 中間材料開発や北米炭素繊維新工場立ち上げ準備を継続
- 複合成形材料
  - 米国自動車市場においてSUV・ピックアップトラックにも半導体不足影響が波及し、OEMの生産停止影響を受けた
  - 原材料価格高騰が継続。米国での失業給付加算が9月末で終了したが労働需給逼迫状況は継続しており、従業員確保が依然として課題

## ◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

	(億円)			
	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異
売上高	789	730	907	+177
EBITDA	254	224	375	+151
減価償却費	59	59	136	+77
営業利益	194	165	240	+75
営業利益ROIC	47%	42%	21%	-21%

## &lt; EBITDA増減内訳 &gt; (億円)



主力製品である「フェブリック」や在宅医療機器の販売は堅調。販売承継した糖尿病治療薬も順調に推移

## ■ 医薬品

- 2型糖尿病治療剤 4 剤の販売が順調に推移
- 「フェブリック\*1」や「ソマチュリン\*2」の販売量は順調に拡大
- ライセンス対価収入あり
- 2021年6月に下肢痙縮の効能追加承認を取得した「ゼオマイン\*3」の販売量が急拡大

## ■ 在宅医療

- HOT：COVID-19再拡大により、入院抑制による在宅療養へのシフトが継続し、レンタル台数が伸長
- CPAP：検査数は緩やかな回復基調にあり、レンタル台数増加が継続

## ■ ヘルスケア新事業

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋め込み型医療機器事業において、新製品等が順調に伸長

\*1 高尿酸血症・痛風治療剤

\*2 先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分泌腫瘍/膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤。  
ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma (仏) の登録商標です

\*3 上肢・下肢痙縮治療剤

## ◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異
売上高	1,542	1,581	1,335	-246*
EBITDA	62	158	67	-91
減価償却費	34	31	31	+0
営業利益	28	127	36	-91
営業利益ROIC	4%	18%	6%	-13%

\*日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

## ◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異
売上高	231	286	273	-13
EBITDA	41	52	53	+2
減価償却費	4	4	6	+2
営業利益	36	48	48	+0
営業利益ROIC	44%	58%	63%	+5%

## ■ 繊維・製品セグメント

- 産業資材分野では、自動車関連部材、インフラ補強材、電子部品向け化成品、水処理フィルター・人工皮革向けポリエステル短繊維は好調を維持。一方、期間後半で、半導体不足の影響あり
- 衣料繊維分野では、欧米や中国向けの販売は回復傾向であった一方、国内向け販売は、消費低迷や海外工場のロックダウンにより、全般的に苦戦
- 医療用防護具（ガウン等）の官需は一旦収束
- 事業の選択と集中による基礎収益力の底上げや、活動抑制による販管費減少あり

## ■ ITセグメント

- ITサービス分野はCOVID-19影響が残るものの堅調に推移。ネットビジネス分野は、電子コミックサービスにおける海賊版サイトの影響が継続したが、広告費最適化により収益を確保

## ■ その他 (株) ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC)

- 再生医療製品事業の自家培養表皮「ジェイス」、自家培養角膜上皮「ネピック」に加え、研究開発支援事業の売上が拡大し、堅調に推移
- 2021年6月に製造販売承認を取得した自家培養口腔粘膜上皮「オキュラル\*」について、12月での保険収載が了承された

\*口腔粘膜上皮細胞を用いて角膜上皮幹細胞疲弊症を治療する、世界初の再生医療等製品

## ◆ 営業外損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	20年度 上期	21年度 上期	差異
受取利息	4	2	-2
受取配当金	7	6	-0
持分法による投資利益	13	29	+16
デリバティブ評価益	-	8	+8
その他	9	5	-5
営業外収益 計	34	51	+17
支払利息	15	15	+1
為替差損	2	4	+1
デリバティブ評価損	14	2	-12
投資事業組合運用損	-	4	+4
その他	11	13	+2
営業外費用 計	42	39	-3
営業外損益 計	-9	12	+20

## ◆ 特別損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	20年度 上期	21年度 上期	差異
投資有価証券売却益	3	40	+37
その他	2	2	+1
特別利益 計	4	42	+38
固定資産除売却損	5	9	+4
投資有価証券評価損	14	-	-14
減損損失	4	16	+12
その他	7	2	-5
特別損失 計	29	27	-2
特別損益 計	-25	14	+40

## ◆ 財政状態 [前年度末対比]

				(億円)	
	21年 3月末	21年 9月末	差異	内 為替 換算影響	
総資産	10,411 <sup>*1</sup>	11,688	+1,277	+10	
負債	6,108 <sup>*1</sup>	7,182	+1,075	-6	
(内 有利子負債)	3,800	4,828	+1,027	-8	
純資産	4,304 <sup>*1</sup>	4,506	+202	+17	
D/Eレシオ	0.94	1.13	+0.20	-	
D/Eレシオ (資本性調整後) <sup>*2</sup>	-	0.99	-	-	

## ◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	21年 3月末	21年 9月末	差異
現預金等	1,702	1,355	-347
売上債権	1,810	1,936	+126
棚卸資産	1,410	1,536	+126
固定資産	3,613	4,941	+1,328 <sup>*3</sup>
投資有価証券	848	864	+16
その他	1,027	1,055	+28
総資産 計	10,411	11,688	+1,277

## ◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	20年度 上期	21年度 上期	差異
営業活動	319	339	+20
投資活動	-336	-1,636	-1,299 <sup>*3</sup>
フリー・キャッシュ・フロー	-17	-1,297	-1,280
財務活動他	31	950	+919
現金及び現金同等物増減	14	-347	-361

## ◇ BS換算レート

	21年 3月末	21年 9月末
円/米ドル	111	112
円/ユーロ	130	130

\*1 2021年3月に実施したJ-TECの株式取得による企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っており、当2Qで確定したため見直しを反映（8/6公表 総資産10,369億円、負債6,086億円、純資産4,283億円）

\*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

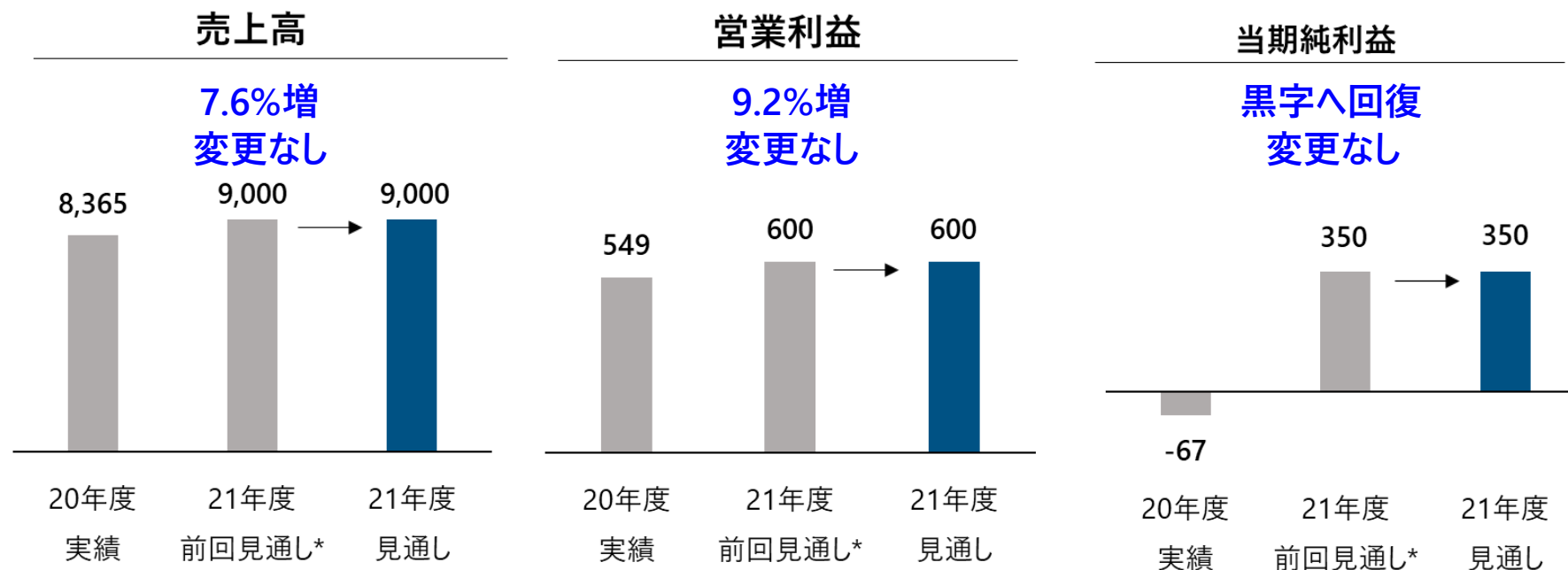
\*3 糖尿病薬販売権等承継（無形固定資産増（1,324億円））等

## 2. 2021年度業績見通し

## ◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比・前回見通し\*対比]

- COVID-19からの回復や糖尿病治療薬販売承継効果等を踏まえ、前年度対比増収・増益見通し
- 上期は概ね想定通りの中、下期は世界的な半導体不足や原燃料価格の上昇が顕在化する等、マテリアルは先行き不透明感が強いが、販売堅調なヘルスケア等を考慮し、全社の通期業績見通しは前回見通しを据え置き
- 2021年度年間配当金見通しも、前回見通しから変更なし

(単位：億円)

前年度対比  
前回見通し\*対比

前提条件

		20年度	21年度 前回見通し*	21年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	106	110	112
	円/ユーロ	124	130	132
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		44	70	75

2021年度配当金見通し (前回見通し\*から変更なし)

中間 27.5円/株 (決定), 期末 27.5円/株, 年間 55円/株  
(20年度: 中間 25円/株 期末25円/株 年間50円/株)

## ◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、前回見通し対比]

(億円)	20年度 実績	21年度 見通し <sup>*1</sup>	差異	増減率	21年度 前回見通し <sup>*</sup>
売上高	8,365	9,000 <sup>*6</sup>	+635	+7.6%	9,000 <sup>*6</sup>
営業利益	549	600	+51	+9.2%	600
経常利益	537	600	+63	+11.8%	600
親会社株主に帰属する当期純利益	-67	350	+417	-	350
ROE <sup>*2</sup>	-1.7%	8%	+10%		8%
営業利益ROIC <sup>*3</sup>	8.6%	7% <sup>*7</sup>	-2%		7% <sup>*7</sup>
EBITDA <sup>*4</sup>	1,068	1,300	+232		1,300
フリー・キャッシュ・フロー	281	-1,300 <sup>*8</sup>	-1,581		-1,300 <sup>*8</sup>
設備投資 <sup>*5</sup>	603	2,100 <sup>*8</sup>	+1,497		2,100 <sup>*8</sup>
減価償却費	518	700	+182		700
研究開発費	327	340	+13		340

\*1 前回見通しから変更なし

\*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出（\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

\*4 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

\*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&amp;Aを含まず）

\*6 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

\*7 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

\*8 糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を含む



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し対比]

					(億円)	
	20年度 実績	21年度 見通し	差異	増減率	21年度 前回見通し*	前回見通し との差異
売上高						
マテリアル	2,970	3,750	+780	+26.3%	3,700	+50
ヘルスケア	1,487	1,800	+313	+21.1%	1,800	0
繊維・製品	3,149	2,650 <sup>*1</sup>	-499	-15.8%	2,650 <sup>*1</sup>	0
IT	581	600	+19	+3.2%	650	-50
その他	178	200	+22	+12.1%	200	0
<b>合計</b>	<b>8,365</b>	<b>9,000<sup>*1</sup></b>	<b>+635</b>	<b>+7.6%</b>	<b>9,000<sup>*1</sup></b>	<b>0</b>

\*1 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

					(億円)	
	20年度 実績	21年度 見通し	差異	増減率	21年度 前回見通し*	前回見通し との差異
営業利益						
マテリアル	10	80	+70	+739.3%	110	-30
ヘルスケア	315	420	+105	+33.3%	400	+20
繊維・製品	175	80	-95	-54.3%	70	+10
IT	104	100	-4	-3.9%	100	0
その他	-2	-20	-18	-	-20	0
消去又は全社	-52	-60	-8	-	-60	0
<b>合計</b>	<b>549</b>	<b>600</b>	<b>+51</b>	<b>+9.2%</b>	<b>600</b>	<b>0</b>

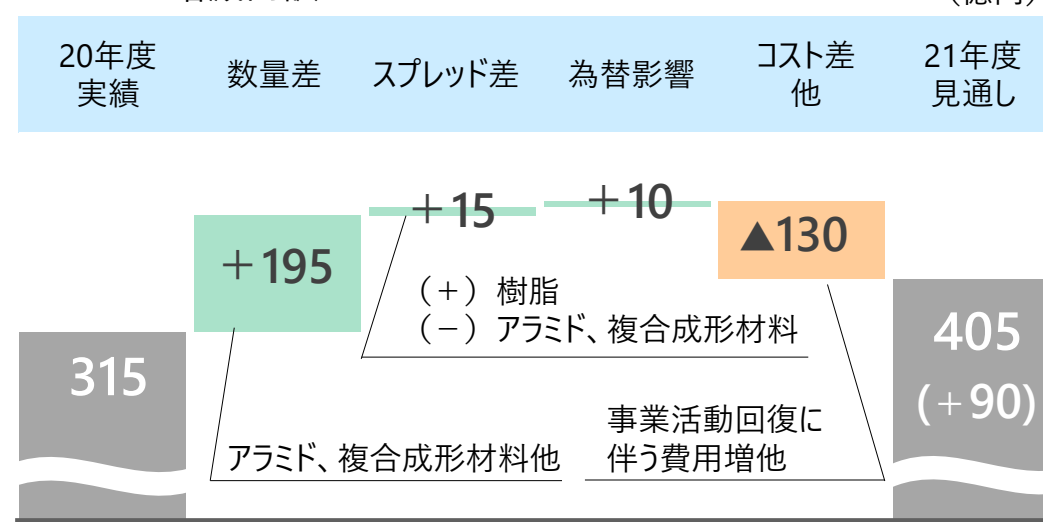
## 営業利益見通しの方向感

	前年度対比		前回見通し対比：セグメント間で見直し実施	
全体	➡	営業増益の見通し	➡	営業利益据え置き
マテリアル	➡	COVID-19影響からの経済の回復による販売増	➡	原燃料価格・物流費高騰影響見込む
ヘルスケア	➡	主力既存製品の販売好調、糖尿病治療薬が順調	➡	さらなる主力既存製品の販売好調を見込む
繊維・製品	➡	医療用防護具（ガウン等）の反動	➡	販売構成改善。コスト削減等が寄与
IT	➡	ITサービスの回復、電子コミック伸長、本社移転費用	➡	電子コミックが海賊版影響受けるも、広告費最適化を実施

## ◆ マテリアルセグメント [前年同期対比、前回見通し対比]

	(億円)					(億円)	
	20年度 実績	21年度見通し		年間差異	21年度 前回見通し*	前回見通し との差異	
	上期	下期	計				
売上高							
高機能材料	2,104	1,396	1,254	2,650	+546	2,600	+50
複合成形材料	866	512	588	1,100	+234	1,100	0
計	2,970	1,908	1,842	3,750	+780	3,700	+50
EBITDA	315	180	225	405	+90	435	-30
減価償却費	306	147	178	325	+19	325	0
営業利益	10	33	47	80	+70	110	-30
営業利益ROIC	0%	2%	3%	3%	+3%	3%	0%

## &lt; EBITDA増減内訳 &gt;



## 営業利益見通しの方向感

サブセグメント	前年度対比	前回見通し対比 (主たる要因)
アラミド	→ • 自動車用途を中心に需要旺盛で販売量回復 • 大型定修とその期間延長影響あり。天然ガス価格高騰	→ • 天然ガス価格高騰
樹脂	→ • 原料価格高騰に対し販売価格改定を進めた • 半導体不足や中国の電力不足影響見込む	→ • 販売価格維持
炭素繊維	→ • 航空機用途を中心に想定以上に販売が好調	→ • 航空機用途含め全般的に販売量が増加
複合成形材料	→ • 半導体不足影響を上期に受けたが下期は徐々に回復 • 原材料価格高騰は下期も継続、販売価格改定を見込む • 従業員確保が困難な状況が継続し労務費高止まり	→ • 原材料高騰や労務費高騰の収束時期が想定より遅れ

物流費高騰

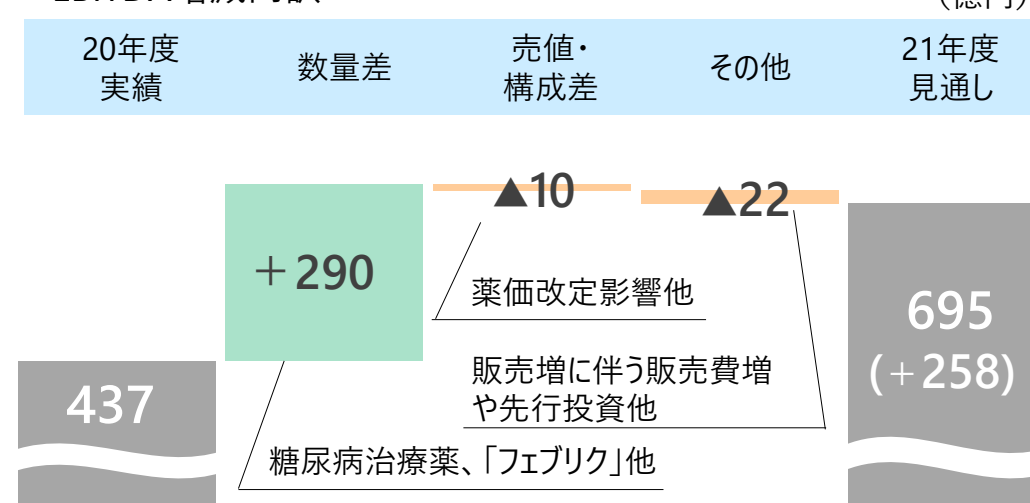
上下対比：樹脂売値低下傾向で下期売上減、複合成形材料は販売価格改定や半導体不足影響の緩和およびテキサス工場稼働開始で売上増

\* 2021年8月6日公表

## ◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比、前回見通し対比]

						(億円)	
	20年度 実績	21年度見通し		年間差異	21年度 前回見通し*	前回見通し との差異	
		上期	下期		計		
売上高	1,487	907	893	1,800	+313	1,800	0
EBITDA	437	375	320	695	+258	675	+20
減価償却費	122	136	139	275	+153	275	0
営業利益	315	240	180	420	+105	400	+20
営業利益ROIC	41%	21%	16%	19%	-22%	18%	+1%

## &lt; EBITDA増減内訳 &gt;



## 営業利益見通しの方向感

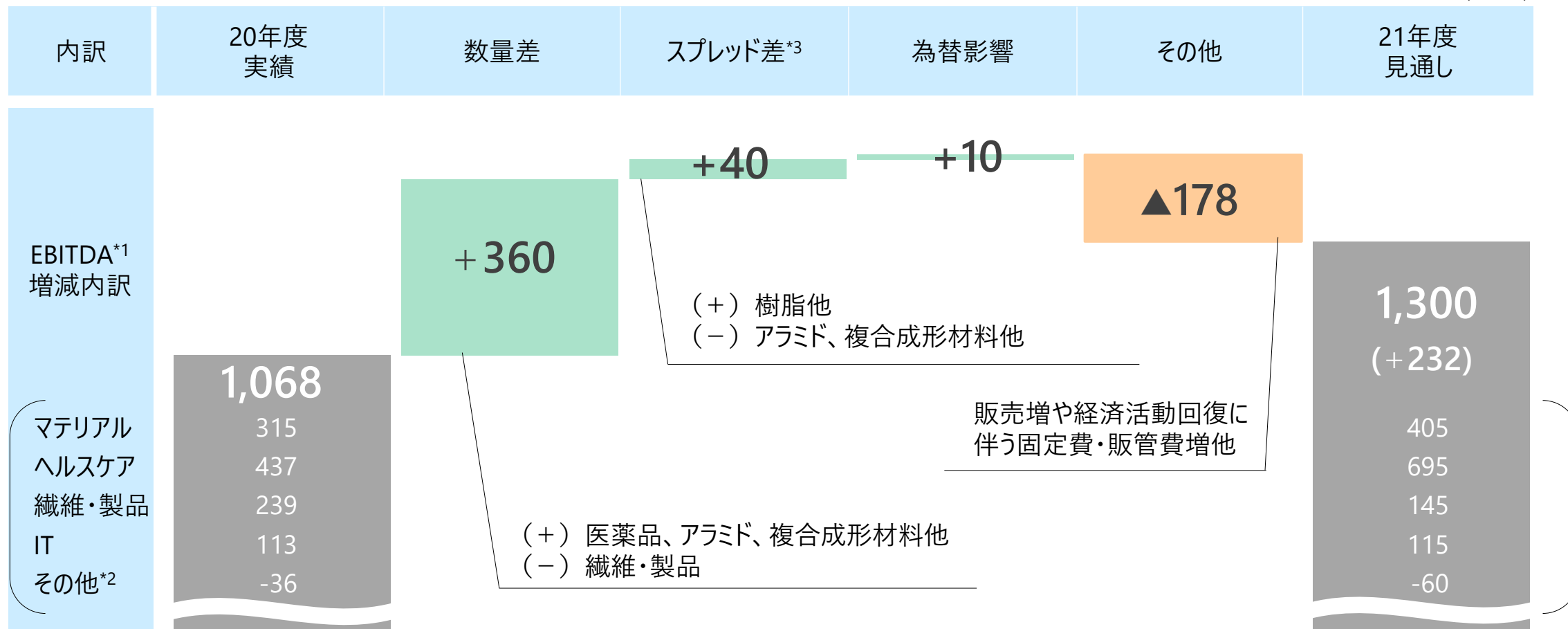
サブセグメント	前年度対比	前回見通し対比 (主たる要因)
医薬・在宅医療	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>糖尿病治療薬販売が貢献</li> <li>「フェブリク」・「ソマチュリン」・HOT・CPAP数量増</li> </ul>	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「フェブリク」・「ゼオメイン」の上期好調が継続</li> <li>経費削減</li> </ul>
新事業	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人工股関節新製品等が順調に伸長</li> </ul>	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変化なし</li> </ul>

上下対比：経費が下期に集中傾向のため、下期営業利益減。ライセンス対価収入の上期計上もあり上下差大。

## 2021年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- 繊維・製品の医療用防護具（ガウン等）の官需が収束したものの、マテリアルの自動車用途を中心とした回復やヘルスケアの糖尿病治療薬の貢献等により、EBITDAは大幅増を見込む

(億円)



\*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 \*2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている \*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

### 3. 主要トピックス

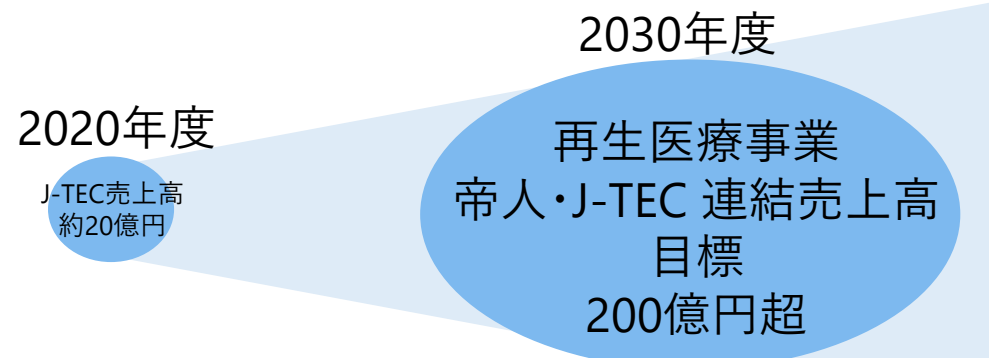
- ◆再生医療事業の事業計画について

# 帝人・J-TECの協働による再生医療事業

□ 帝人グループの Strategic Focus のひとつとして、収益源の柱となる事業を目指す

## 1. 取り組む事業

事業	両社の貢献	
	TEIJIN	協創 J-TEC
再生医療等製品CDMO*1	新事業として参画	許認可取得・製造供給等の豊富な実績
J-TEC再生医療製品 (海外展開、整形領域拡大、関連新事業創出)	素材・技術力の活用 海外展開支援 医薬品、医療機器販売経験	製品開発力



## 2. 取り組む領域

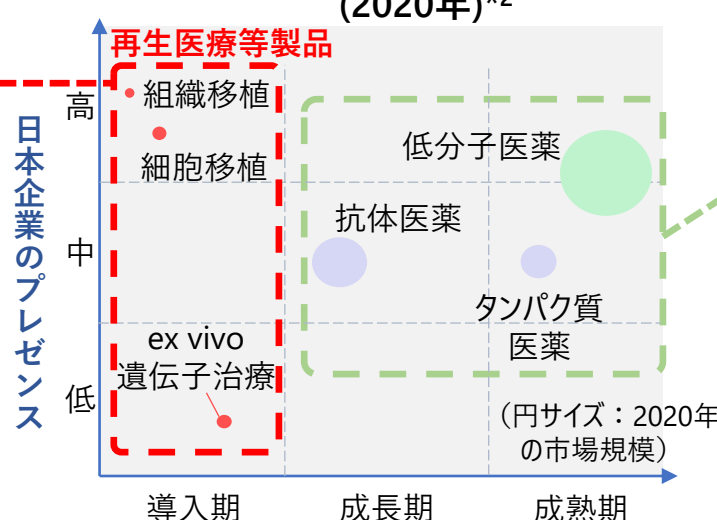
**< 帝人・J-TEC CDMOのターゲット領域 >**  
海外・国内ソース自家細胞の日本でのCDMO事業

ex vivo遺伝子治療+細胞/組織移植の日本市場\*3 ●  
260億円(2020年)\*4 → 5,500億円(2030年)\*4  
2030年の市場の過半は自家細胞製品

特徴

- 自家細胞は、究極のテーラーメイド製品; 患者さん所在地での地産地消が望ましい
- 自家細胞製造は、再現性とスケールアップに耐える製法のつくりこみが重要; J-TECの高度な細胞培養技術と複数の許認可取得の経験値が強み

各モダリティ(治療手段)の日本市場における現状 (2020年)\*2



**< 帝人・J-TEC CDMO事業がターゲットとしない領域 >**  
抗体医薬・タンパク質医薬などのバイオ医薬品・低分子医薬

バイオ医薬品市場 ● : 2.2兆円(2020年)\*2  
低分子医薬市場 ● : 4.8兆円(2020年)\*2

特徴

- シンプルな製造プロセスと製品間の共通性
- 製造の自動化や大量生産が容易
- 生産地に拘らない製品の安定性

\*1. 受託製造開発機関  
\*2. 内閣官房健康・医療戦略室委託事業「医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連の産業化に向けた課題及び課題解決に必要な取組みに関する調査」2021年3月 (Arthur D. Little社実施)より改変して作成。なお、日本市場の規模は、同調査を参照し、グローバルの10%と推定  
\*3. 最終製品の市場規模。最終製品に対するCOGS相当のうち、委託製造分がCDMO事業のターゲット市場  
\*4. AMED 委託調査「日本医療研究開発機構 (AMED) 2019年度 再生医療・遺伝子治療の市場調査 最終報告書」 2020年3月 (Arthur D. Little社実施)

## 4. 参考資料

## 定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"><li>アラミドは2021年度1Qに大型定修（3年に1度）</li><li>樹脂は毎年2Q、3Qに定修</li></ul>
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"><li>4Qに経費集中傾向</li><li>一時的なライセンス収入／支出</li></ul>
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none"><li>衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン</li></ul>
IT	<ul style="list-style-type: none"><li>2Q、4Qはシステム検収時期で納入増</li></ul>



## 複合成形材料事業のグローバル事業ブランドの確立

- 自動車向け複合成形材料事業について、「Teijin Automotive Technologies」に事業ブランドをグローバルで統一しました。
- これにより、欧州・米州・中国・日本に跨がる世界29拠点、社員約5,400名におよぶグループ会社ならびに組織が、1つのグローバル事業ブランドのもとに結束し、事業体制を強化して、ライフサイクル全体における環境負荷の低減を実現する自動車部品の技術開発、生産、供給を展開していきます。
- 上記にしたがい、事業傘下の会社名を、順次変更します。（11月8日時点で、Benet以外はすべて変更実施済）

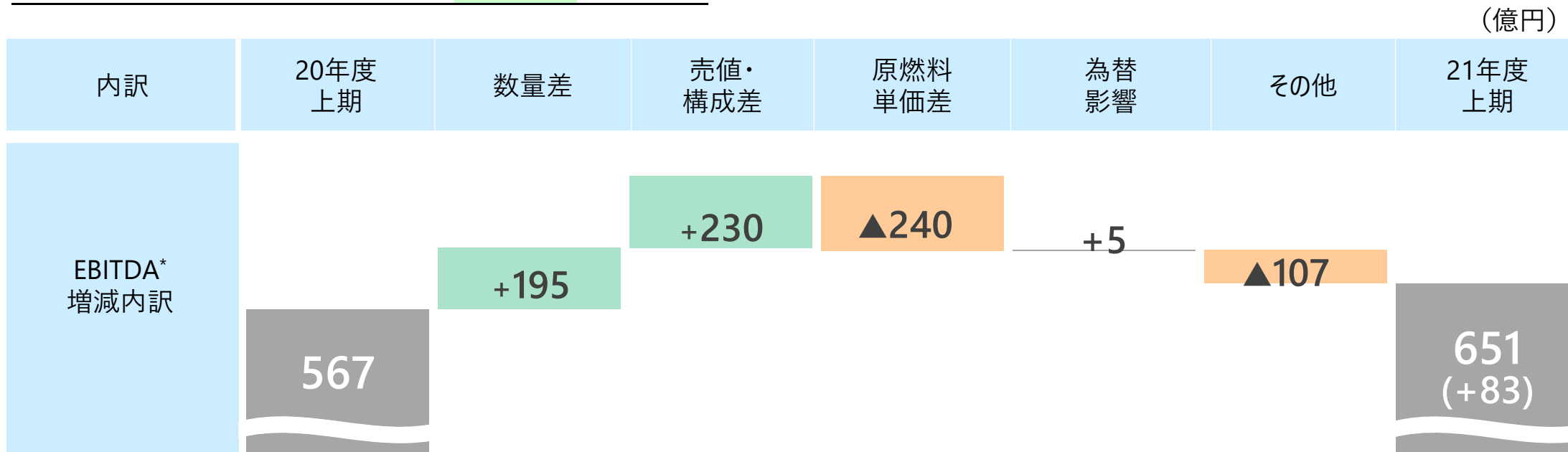
（主要会社のみ掲載）

旧会社名	新会社名
Continental Structural Plastics Holdings Corporation	Teijin Automotive Technologies NA Holdings Corp.
Inapal Plasticos S.A.	Teijin Automotive Technologies Portugal S.A.
Benet Automotive s.r.o.	Teijin Automotive Technologies Czech s.r.o.
CSP Victall (Tangshan) Structural Composites Co., Ltd	Teijin Automotive Technologies (Tangshan) Co., Ltd

## ◆ EBITDA\*増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	19年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	前年同期 との差異
売上高	4,360	3,941	4,534	+592
EBITDA*	588	567	651	+83
減価償却費	251	257	336	+79
営業利益	338	311	315	+4
営業利益ROIC	10.1%	9.5%	7.9%	-1.6%



\*「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

## [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

(億円)

	19年度					20年度					21年度		差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	21/2Q -20/2Q	21/2Q -21/1Q
売上高														
高機能材料	633	624	556	550	2,364	438	476	544	647	2,104	693	703	+227	+9
複合成形材料	228	231	229	224	912	101	248	252	264	866	264	248	-1	-17
マテリアル 計	861	854	786	774	3,275	539	724	796	910	2,970	958	950	+226	-7
ヘルスケア	398	391	403	347	1,539	362	369	388	368	1,487	459	449	+80	-10
繊維・製品	738	804	772	749	3,063	716	865	790	778	3,149	655	680	-185	+25
IT	109	122	112	143	486	135	150	137	158	581	135	137	-13	+2
その他	40	42	41	50	174	39	42	45	53	178	52	58	+16	+6
<b>合計</b>	<b>2,146</b>	<b>2,214</b>	<b>2,114</b>	<b>2,063</b>	<b>8,537</b>	<b>1,791</b>	<b>2,150</b>	<b>2,156</b>	<b>2,268</b>	<b>8,365</b>	<b>2,259</b>	<b>2,275</b>	<b>+125</b>	<b>+16</b>
営業利益														
マテリアル	56	46	29	28	158	-14	9	2	13	10	21	12	+3	-10
ヘルスケア	105	89	97	34	326	87	78	93	57	315	132	108	+29	-25
繊維・製品	10	18	14	12	54	51	76	36	12	175	20	16	-60	-5
IT	13	23	19	23	78	20	27	21	35	104	21	27	-1	+6
その他	-0	3	-1	2	3	-4	1	2	-1	-2	-3	-6	-8	-3
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-58	-14	-6	-13	-19	-52	-19	-13	-7	+6
<b>合計</b>	<b>170</b>	<b>168</b>	<b>145</b>	<b>80</b>	<b>562</b>	<b>126</b>	<b>185</b>	<b>142</b>	<b>97</b>	<b>549</b>	<b>173</b>	<b>142</b>	<b>-43</b>	<b>-30</b>

## ◆ 連結損益計算書 四半期推移

	(億円)									
	19年度				20年度				21年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791	2,150	2,156	2,268	2,259	2,275
売上原価	1,470	1,534	1,461	1,438	1,194	1,484	1,522	1,614	1,550	1,587
売上総利益	677	680	653	624	597	666	634	653	709	688
販管費	507	512	509	544	471	481	492	556	536	546
営業利益	170	168	145	80	126	185	142	97	173	142
営業外損益	-1	-6	-1	-11	-1	-7	-15	11	12	-0
(内 金融収支)	-1	-5	-4	-4	-1	-3	-2	-2	-2	-5
(内 持分法投資損益)	4	7	2	8	2	12	5	7	15	14
経常利益	169	162	144	69	124	178	126	108	184	142
特別損益	-18	-23	6	-93	-14	-11	33	-451	-19	34
税金等調整前四半期純利益	151	139	150	-24	110	167	160	-343	165	176
法人税等	40	37	47	21	48	57	44	-13	61	51
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	5	4	5	7	7	5	7	7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	97	97	-49	57	103	108	-335	98	118

## ◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	19年度				20年度				21年度	
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末 <sup>*</sup>	6月末 <sup>*</sup>	9月末
資産										
流動資産	5,116	5,255	5,280	5,053	5,026	5,131	5,074	5,346	5,389	5,517
固定資産	4,910	5,052	5,139	4,989	5,024	5,055	5,133	5,066	6,461	6,171
合計	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,207	10,411	11,850	11,688
負債・純資産										
負債	5,860	6,103	6,065	5,928	5,880	5,837	5,744	6,108	7,439	7,182
(内 有利子負債)	3,743	4,076	3,982	3,819	3,914	3,873	3,628	3,800	5,029	4,828
純資産	4,166	4,204	4,354	4,114	4,169	4,348	4,463	4,304	4,411	4,506
合計	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,207	10,411	11,850	11,688

\* 2021年3月に実施したJ-TECの株式取得による企業結合について、  
前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っており、当2Qで確定したため見直しを反映

## ◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)

	20年度実績			21年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
高機能材料	914	1,191	2,104	1,396	1,254	2,650	+483	+63	+546
複合成形材料	350	516	866	512	588	1,100	+162	+72	+234
マテリアル 計	1,263	1,706	2,970	1,908	1,842	3,750	+645	+135	+780
ヘルスケア	730	756	1,487	907	893	1,800	+177	+136	+313
繊維・製品	1,581	1,568	3,149	1,335	1,315	2,650	-246	-253	-499
IT	286	296	581	273	327	600	-13	+32	+19
その他	81	97	178	110	90	200	+29	-8	+22
<b>合計</b>	<b>3,941</b>	<b>4,424</b>	<b>8,365</b>	<b>4,534</b>	<b>4,466</b>	<b>9,000</b>	<b>+592</b>	<b>+42</b>	<b>+635</b>
営業利益									
マテリアル	-5	15	10	33	47	80	+38	+32	+70
ヘルスケア	165	150	315	240	180	420	+75	+30	+105
繊維・製品	127	48	175	36	44	80	-91	-4	-95
IT	48	56	104	48	52	100	+0	-4	-4
その他	-3	1	-2	-10	-10	-20	-6	-12	-18
消去又は全社	-20	-32	-52	-32	-28	-60	-12	+4	-8
<b>合計</b>	<b>311</b>	<b>238</b>	<b>549</b>	<b>315</b>	<b>285</b>	<b>600</b>	<b>+4</b>	<b>+47</b>	<b>+51</b>

## ◆ セグメント別経営指標 [前年度対比 及び 前回見通し対比]

(億円)

	20年度 実績	21年度 見通し	差異	21年度 前回見通し*	前回見通し との差異
EBITDA <sup>*1</sup>					
マテリアル	315	405	+90	435	-30
ヘルスケア	437	695	+258	675	+20
繊維・製品	239	145	-94	135	+10
IT	113	115	+2	115	0
その他	7	0	-7	0	0
消去又は全社	-43	-60	-17	-60	0
<b>合計</b>	<b>1,068</b>	<b>1,300</b>	<b>+232</b>	<b>1,300</b>	<b>0</b>
営業利益ROIC <sup>*2</sup>					
マテリアル	0%	3%	+3%	3%	0%
ヘルスケア	41%	19% <sup>*3</sup>	-22%	18% <sup>*3</sup>	+1%
繊維・製品	14%	6%	-8%	6%	0%
IT	66%	67%	+1%	67%	0%
<b>合計</b>	<b>8.6%</b>	<b>7%<sup>*3</sup></b>	<b>-2%</b>	<b>7%<sup>*3</sup></b>	<b>0%</b>

\*1 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*2 「営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出

(\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

## ◆ 主要経営指標推移

	16年度 実績	17年度 実績 <sup>*7</sup>	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 見通し
ROE <sup>*1</sup>	15.7%	12.5%	11.2%	6.3%	-1.7%	8%
営業利益ROIC <sup>*2</sup>	10.0%	11.2%	9.3%	8.7%	8.6%	7% <sup>*8</sup>
EBITDA <sup>*3</sup> (億円)	958	1,155	1,076	1,072	1,068	1,300
1株当たり当期純利益 (円) <sup>*4</sup>	254.9	231.3	232.4	131.6	-34.7	182.2
1株当たり配当金 (円) <sup>*4</sup>	55	60	70*	60	50	55
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	9,641	9,820	10,207	10,042	10,411 <sup>*9</sup>	11,700
有利子負債 (億円)	3,762	3,442	3,692	3,819	3,800	5,200
D/Eレシオ <sup>*5</sup>	1.11	0.88	0.90	0.97	0.94	1.2
D/Eレシオ (資本性調整後) <sup>*6</sup>	-	-	-	-	-	1.1
自己資本比率	35.1%	40.0%	40.2%	39.3%	39.0% <sup>*9</sup>	36%

\*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

\*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本<sup>\*</sup>」にて算出 (\*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

\*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

\*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

\*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

\*6 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

\*7 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

\*8 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

\*9 2021年3月に実施したJ-TECの株式取得による企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っており、当2Qで確定したため見直しを反映



## ◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	20年度					21年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	上期
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	87	89	96	83	356	96	97	193
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	36	33	69
イニシク®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	21	20	41
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	21	21	23	18	83	20	20	40
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 膝・神経内分泌腫瘍治療剤	13	13	14	12	52	13	13	27
ベニロン®	重症感染症治療剤	14	12	14	10	50	12	12	24
リオベル®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	12	10	22
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	7	6	13
ムコソルバン®	去痰剤	6	5	7	5	22	5	5	10
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	6	5	5	21	5	5	10
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	3	3	3	2	10	2	3	5
ゼオマイン®	上下肢痙縮治療剤	-	-	0.1	0.3	0.4	0.5	2	2.5

\*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp &amp; Dohme Corp. (米)の登録商標です。

\*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です。

## ◆ 非財務情報 ESG外部評価

## GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



FTSE Blossom  
Japan

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2021 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



（注） MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

ESGへの取り組みが優れている企業として、  
2つの国内プログラムに選定

「なでしこ」

女性活躍推進



健康経営推進



## SRI（社会的責任投資）インデックスへの組み入れ



FTSE4Good



***TEIJIN***

*Human Chemistry, Human Solutions*